

令和2年度自己評価結果公表シート

一.教育目標

心身共に健康で円満な人格形成の基盤を培い、創造性を養い、幼児の個性を伸ばすことを目標としています。

1. 自分で考え、工夫するたくましい子に育てます。(自立)
2. のびのびと自分を表現できる子に育てます。(個性)
3. 社会のルールを身に付けた協調性のある子に育てます。(社会性)
4. 優しく思いやる子に育てます。(心)

二.本年度の重点目標

園全体の行事の取り組みや日々の保育が園児にとってどのような影響を与え、内面がどのように成長していくのかを話し合い、全職員共通理解のもとで行われるように重点目標を置くために、クラスや学年の枠を超えてお互いに連携して物事を進めるようにする。

またコロナ禍にある中でも幼稚園の様子をどのように理解して頂けるのか、話し合いを進めると同時に保護者理解に努め、保護者との連携のあり方について話し合う。

三.自己評価結果

自己評価は段階評価とした。この評価結果は三学期末での評価である。5点満点であり評価点は教職員の平均点である。

達成されている	A	概ね達成されている	B
取り組まれているが十分ではない	C	取り組みが不十分である	D

I. 保育の計画性

内容	評価点
1. 園の教育理念・教育方針の理解	
・園の教育理念や教育方針を理解している	A
2. 幼稚園教育要領の理解	
・幼稚園の教育要領を理解していると思う	B
3. 教育課程の編成	
・園の教育過程をもとに保育の計画を立てている	B
4. 指導計画の作成	
・指導計画は教育要領、教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成している	A
5. 教育の構成	
・安全で清潔感のある環境構成をしている	A
6. 保育と計画の評価・反省	
・自分の保育と計画の評価・反省は行うようにしている	B

Ⅱ. 保育のあり方、幼児への対応

内容	評価点
1. 健康と安全の配慮	
・朝の登園時は得に視診を大切にして幼児の体調が悪くないかを確認している	A
・怪我や事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成や言葉がけを行っている	A
・万が一、事故や怪我が発生した場合は、園長に報告し保護者に連絡をとり、医師に見てもらするなど適切な処置を行っている	A
1. 幼児のみとりと理解	
・一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている	B
・幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるようにしている	B
・見えないところで活動している幼児についてもある程度その活動の様子を推察することができる	B
・幼児同士のかかわりの姿をとらえることができる	B

Ⅲ. 教員としての資質や能力・良識・適正

内容	評価点
1. 専門家としての能力・良識・義務	
〔専門家としての能力〕	
・幼稚園教諭として専門知識や技能を身に付けている	B
・より高度な専門知識や技能を身に付けようと研修している	C
〔良識とマナー〕	
・保育時間外でも保育者としての誇りと自覚を持った言動を心がけている	B
・服装、髪型、身だしなみなど清潔感のあるものを心がけている	A
〔義務〕	
・職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている	A
2. 組織の一員としての有り方	
・教職員全員でひとつのチームであることを意識している	A
・会議や打ち合わせは時間を厳守している	A
・他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるができる	B
・自分の意見と異なる結果となっても議論上で決定したことは協力し実行している	B
・子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をする	A
・当番や、役割による仕事は確実にやっている	B
・上司の指示、命令には責任を持って実行している	A
・教職員のプライバシーについてもこれを他へ漏らしていない	B
3. まわりを感じ取れる感性・アンテナ	
・幼児や教育に関する情報をたえずとらえようとしている	B
・幼稚園や幼児のことだけでなく、自然や社会の出来事にも興味がある	B

IV. 保護者への対応

内容	評価点
1. 情報の発信と受信	
・クラスや子どもの様子、自分の考え方、保育のポイントなどをクラスだよりなどで知らせている	B
・電話、連絡帳などで緊急な連絡等を行っている	A
・個々の子どもの様子は直接話をしたり電話、連絡帳などを使って伝え合っている	A
・場合によっては個別に保育の様子や子どもの様子を見てもらったり保護者と話し合ったりする	B
・自分の考えをきちんと話し、保護者の話は、心を開いてよく聞く	B
2. 協力と支援	
・保護者からの様々な訴え要望、意見については安易に受け取ったり、断ったり無視しないで、園長や主任、学年主任等に報告や相談をしている。	B
・保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことを教育的な意義付けをはっきりさせてからにしている	B

V. 地域の自然や社会のかかわり

内容	評価点
1. 地域の自然・人々のかかわり	
・地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている	B
2. 小学校との連携	
・小学校の教育内容について理解しようとしている	C
・卒園した子どもの情報を得るようにしている	B
3. 地域への開放と支援	
・地域開放や子育て支援について具体的な形や内容を理解している	C

VI. 研修と研究

内容	評価点
1. 研修・研究への意欲・態度	
・研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している	B
・専門書や専門雑誌を読んでいる	A
・自分の保育のあり方や悩みについて他の教師や主任、園長と話し合っている	A
2. 教師としての専門性に関する研修・研究	
・指導とかかわりのあり方について研修・研究を行っている	B
・保育者同士の協力・連携のあり方について研修・研究を行っている	A

3. 遊具・教材に関する研修・研究	
・園の遊具や教材についてさまざまな利用方法について研究している	B
4. 園内の環境に関する研修・研究	
・園地、園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し保育に生かしている	B
5. 今日的課題に関する研修・研究	
・障害のある幼児に対応する保育のあり方を学習している	A
・チーム保育について、その意義やあり方について研修・研究している	B
6. 自らを高めるだけの学習	
・趣味・人とのかかわりなどうるおいのある生活を心がけている	C

四.学校評価・自己評価における総合的評価

今年度は、支援の必要な園児がかなり多く、その対応に追われることが多かったが、その分お互いに協力し合いながら連携して物事を進めていけたのではないかと感じている。しかし、今年度も仕事にかかる時間が生活の多くを占め、自らの趣味やゆとりのある生活を過ごすという面などにおいては改善が必要である。また、地域連携に関してはコロナ禍にあつて、なかなか十分な取り組みが出来ていない事が評価にも表れている。

五.今後取り組むべき課題

教員同士の連携に関しては昨年度に引き続き、しっかりと取れるようになってきたと感じている。次年度は、新任教員の採用もある事からさらに取り組みに重点もある事からますます教員同士のつながりを重視していきたい。

また、コロナ禍での園生活幼稚園で行っていることを保護者に理解して頂く為に、工夫をしたつもりではあったが、不十分であったことが保護者アンケートからも読み取れた。

今年度、購入して使用方法を模索しているタブレットを、次年度はさらに外部アプリケーションを使う事で、保護者への発信や教員の業務削減に取り組んでいきたいと思う。

六. 学校評価委員会の評価

昨年度に引き続き幼稚園内での保育と行事（発表会・交通安全教室）を見学して頂き日々の保育の延長としてそのままの子どもたちの姿を見て頂きました。

今回は、大学生と奈良県警が交通安全教室の指導を下さった場面を見て頂く機会に恵まれました。コロナ禍で様々な行事が減る中、子どもたちが大学生との触れ合いを楽しみながら実施出来た事を評価して下さいました。

制約がある中でも行事を止めないで、どこまでなら進めていけるのかをしっかりと話し合い、感染防止対策を行った上でじっしすることの意義を感じましたとの感想を話されました。

また、コロナ禍での保育環境においてペーパータオルの導入や、床面の張替え、プラズマクラスターの設置などを積極的に行っている事も評価して頂きました。

普段の保育の様子が行事の中にも園児の態度や表情から読み取れるという言葉もいただき、改めて日々の保育の積み重ねの大切さを痛感しました。